



与謝野晶子

夕日の丘に

銀杏散るなり

かたちして

小さき鳥の

金色の



K'mio talks

老人施設で歌うということとは…

ショコラの次の目標が決まりました。言うまでもなく1月のマイウェイです。ショコラはせせらぎで、何回もコンサートをやってきましたし、だからこそ、老人施設の方の対応、反応は慣れているかも知れませんが、せせらぎはそれに加え、一般のお客様も入っていました。今度の演奏会は純粋に施設関係の方のみが対象になります。私もカインズでずいぶん施設で歌ってきましたが、一番最初に行った時の事は忘れません。同じ日に先ずはデイサービス、そして特養の方対象に二回の公演を行いました。デイサービスの時はまだ反応も良かったのですが、特養の方は今まで体験した反応と違うもので、随分戸惑いました。しかしながら、演奏をやっていくうちに明らかではないけれどちょっとずつ反応が見られる様にもなってきました。そしてそれは自分たちが一生懸命演奏しているから、ということに気付きました。ですので皆さんも反応に対して戸惑う事なく、そして期待することもなく、とにかく全力を尽くして演奏が出来る様に日々頑張らしましょう！（Noboru Kamio）



佐々木 団長の 断腸の思い

～10周年～ 今からアイデアを温めて

早いもので9月の演奏会を終えて2か月近くが経ちました。次の大きな目標であるホールでの演奏会は再来年と決めました。再来年の1月でショコラは結成から10年が経過しますので、次の演奏会はショコラ結成10周年記念コンサートとなるわけです。団への所属期間は皆様それぞれ異なると思いますが、10周年記念に相応しい演奏会にしたいですね。演奏曲目は少しずつ固まりつつありますが、演奏会の時期や演奏会のイメージについて色々なアイデアを今から温めて頂きたいと思います。特に演奏会の時期についてはホールの確保の関係や練習の進め方に影響がありますので1月までには固めたいと思います。前回は「暗譜」という目標をクリアしてステップアップしました。皆様それぞれ次に向けての目標がおりと思いますので、それが達成できるように努力し、次も大きくステップアップできるよう頑張らしましょう。（佐々木 晋）

いとみるか、怖いとみるか。(Kobo)

小春日和の昼下がり、草紅葉の草原をときおり爽やかな風が吹き抜ける。たおやかな言葉で囁くようにお話を語る石仏…。どんなお話をしていたのだろう。ここに登場する石仏は私の頭の中では、ずっとなぜか女性です。詩作品は作者が思いも及ばない解釈をされているかもしれませんが、それを面白

十周年記念コンサートの演奏曲選定が進んでいます。その一つとして『心の四季』が選ばれました。作詩者（吉野弘）氏にこんな詩があります。



季刊 雑感

石仏 “晩秋”

うしろで

優雅な、低い話し声がする。

ふりかえると

人はいなくて

温顔の石仏が三体

ふっと

口をつぐんでしまわれた。

秋が余りに静かなので

石仏であることを

お忘れになって

お話などなされたらしい。

其処だけ不思議なほど明るく

枯れ草が、こまかく揺れている。



わたしの先生



阿部 紀世 (ソプラノ)

友だちせんせい

有名な進学校の教師を勤めあげ定年になった友人がいます。彼女はそこの教師である事に誇りをもち充実感-達成感を感じた毎日だったようです。定年後ほどなくして進学率ゼロに近い学校から依頼され不本意な気持ちで受けました。通い始めたもののあまり期待もなく教師として今ひとつ気持ちの盛り上がりがないのです。半年後、彼女から嬉しい報告がありました。授業中に鋭い突っ込みをする真面目な生徒、授業に直接関係のない話題の中に発見する生徒達の生き生きとした人間性、毎日、生徒達にあうのが楽しみになったというのです。その上成績も徐々に上がってきました。その話を聞いているうちに何故か私も涙が出てきました。彼女の人間性が深まった（生意気かも）ように感じました。学生時代にシェイクスピアの英語劇「じゃじゃ馬ならし」の主役をやったというのが彼女の自慢。その自慢話も今は余裕を持って聞けるようになりました。ドイツに行ったとき英語でジョークを言って外国人と笑い合っていた姿に感動し、そのうち私も何とか喋れるようになろうと思いました。毎日の忙しい生活の繰り返しの中では永遠の課題かもしれませんけど～。

自分に何か悩み事があるたびに彼女だったらどう対処するかなあと心の中で自問し選択しています。



教えて ショコラ

9月に入団したアルトの根本悦子さん。自己紹介を兼ねて〈ふるさとの好きな食べ物〉について寄稿していただきました。

ふるさとの好きな食べ物

千葉の名産 大浦牛蒡

根本 悦子 (アルト)



大浦牛蒡

私が生まれたのは成田市郊外で田園風景が一面に広がっているところ。成田山新勝寺が有名ですが、その新勝寺に因み精進料理で有名な「大浦牛蒡」を紹介したいと思います。

この大浦牛蒡は千葉県匝瑳市（ソウサン）大浦地区で生産され、成田山新勝寺に奉納される牛蒡です。直径15cm、長さ80cmにもなる大変太いもので、特別御護摩修行を申し込んだ人のみ精進料理で食べる事ができます。現在生産されている農家は6軒。栄養分を大変多く吸い上げる為同じ畑では5～7年に一度しか作れません。収穫した大浦牛蒡は全て新勝寺に納める為、新勝寺でしか食べることができません。寺録によると、西暦939年に藤原秀郷が平将門の討伐の為に新勝寺で必勝祈願をした際に大浦牛蒡で酒宴を行い、勝利を収めたことから「勝ち牛蒡」と名付けられ、以後、縁起物として珍重されています。かの海老蔵さんも食べた？とされるこの牛蒡ですが、実は…、私は食したことがありません(笑)

編集後記 2012. 11. 15

NHKEテレ、日曜夜9時の「ラララくらしっく」をいつも楽しく見ている。なぜ楽しいかという、○司会の加羽沢さん、石田さんの軽妙なおしゃべりが面白い ○素人(一般人)にわかりやすく、興味をひく視点で作られている ○プロの立場からの音楽の魅力を伝えてくれる。音楽にもいろんなジャンルがあるが、知れば知るほど奥が深い。(三葉)

9月、欠席者も何人かいるし本番間近には高揚してないなと感じた。10月、コンサートが終わってさらに欠席者が増えた。自身にも多少疲労感があった。そんなとき「もっと厳しそうな合唱団」を選んだメンバーが退団した。《継続は力なり》、たかが趣味に…。とこれまで聞き流してきたけれど、趣味といえども組織の継続は結構、エネルギーを要することかもしれない。ともあれショコラは次の目標に向かって始動した。個人的には、新しい曲の音源を作ってください人を待望している。音痴の編集子に救い主が現れないものだろうか (Kobo)